

# さくら インタビューシリーズ

by 村上博美



武部直子さん

医療の分野でも最先端の研究や治療を行っている米国立衛生研究所(NIH)の中にあるがんセンター(NCI: National Cancer Institute)に、臨床医として新しいがんの薬の研究や治療に携わっている武部直子さんにお話を聞きしました。

— 今のお仕事の内容を教えてください。

— 現在は、承認されたお薬で治らないがん患者さんを対象に、前例のない方法で、安全かつ効果が期待される治療法をデザインし、バイオマーカーを駆使しながら薬の開発していく仕事をしています。

— アメリカでお仕事されて長とこのことですが、ご出身はどこですか?

— 北海道札幌市出身です。父は医者で母は英語とピアノの先生でした。10歳の時に、父がオレゴン大学で客員教授となり、1年間家族でポートランドへ移り住み、小学校4年生を現地で

過ごしました。帰国して小学生の頃は習い事もしていましたが、毎日真っ黒になっただけで、中学生になって急に読書に目覚め、学校と家と図書館を往復する生活に。そして、父が弘前大学の教授として移ったのをきっかけに、14歳の時に弘前へ移りました。

— 医学の道に進もうと思ったのは?

— 弘前高校時代に心が高かったのは語学、歴史、文学、哲学で、国際法や医学にも多少関心を持っていました。理科学系を勉強したのは医学部にいくためでした。男女雇用均等法の前で、高専生ながら手に職をつけなければならぬと、医者か弁護士かと思いましたが、母方の祖母が京都の外科医の娘で、なりたくてもなれなかったという思いを聞いていたので、その影響もあるかもしれません。弘前大学医学部に進みましたが、父が教授を務めていたのでやり

たいと思っただけです。— アメリカへ来た行くと決めたのは、日本に帰ってきただけで、アメリカへの行きたいという思いが、横須賀の海軍病院で日本

— アメリカとの接点は?

— 医学部最終学年の時、姉妹校であるテネシー大学へ交換留学。4週間の期間でしたが、あまりにも日本とやりの違いにショックを受けました。日本だったら患者さんに触らせてもらえないのに、ここでは外国人学生の私にも患者さんの処置をさせてもらった。ここで見えてきて、自分ですべて、そして次に人に教える。その3段階だよ、と。— テンポが早く、早い。このテンポで研修すれば、早い医師になれるのでは、ないかと思いましたが、特に小児の白血病の治療などで有名なセント・ジョージドホスピタルには衝撃を受けました。A.L.Lという白血病があるけど、90%治療するの、すごい数字を出したところ。そこに行くと自分は、がんをやるし

で、履歴書を出して、突然電話がかかってきて「面接に来ないか」と、実験医学もわかり臨床もできる人材を探していると言われ、そこで骨髄移植について、抗がん剤の開発に飛び込むことになりました。

— 失敗から学んだ教訓はありますか?

— アメリカでも医者の80%が外国人。日本人だからといって自分だけが特別じゃない。ただ、議論に加わることが難しく、意見がないと思われて、そのプロジェクトが他の人に移ってしまった事もありました。— 私がやりたいことがあっても、皆の前で「私にやらせたい」と手を挙げるのが大事。誰かが誘ってくれるのも待つていたら一生仕事は来ません。

— 情報が少ないか自分で決断するしかないやり方に疑問を感じたことありますか?

— 主人も応援してくれました。

— 横須賀時代に出会い、後に結婚する主人もアメリカ人のインテリを受け入れてくれた。お金をもらえる英語学校だと思つて1年間行きました。(笑) 患者もアメリカ人。スタッフもアメリカ人の病院。ただ、アメリカに行くには、アメリカの医師免許を取らなくてはならず、3段階の試験をすべて合格しなければいけません。その前に日本の医学制度も経験して、麻酔科の資格も取りました。当時、テネシーで受けた衝撃から血液がんに魅了されていたので、自分がやりたいことは骨髄移植だ、と思い骨髄移植の専門医となり、ポートランド大学の助教授となりました。NCIに来るきっかけは、友人から誘われて軽い気持ちで他の先生は教えてくれず

「広い世界への好奇心に突き動かされて 祖母から受け継いだ好奇心が原動力に 武部直子さん 米国立衛生研究所(NIH)がんセンター 研究員」

— お仕事をしていますし、やりがいは何ですか?

— まだ存在しないものをつくること。ヒトに対して初めて使う薬を安全に、かつ薬の機序を解明するための研究を同時に行いながら治療することを考えなければいけません。— 企業が通るとお金が、そして実際にプロジェクトを実施して患者さんがよくなれば最高にうれしい。なかなかそういうことは少ないですが、やはり仕事をしている時が楽しい。— 日本では、例えば「白い巨塔」なんかを見ると階層的になっていて、スタッフの考えが取り入れら

ることは事ではないですが、アメリカの場合はスタッフでも意見を言い、自分の治療や研究をすることができると、私は、日本よりアメリカの方が合っていると思います。

— 最後にありますが、お二人のお子さんと一緒にバイオリンを演奏されるそうですね?

— 親子で弾けたらいいなと思って小さい頃から子供に

— 子供が小さい時は、一緒に子供たちとコンサートで演奏していましたが、今はとくに思いが強く、組織したチャリティ・オーケストラで海外公演もしています。— 自分で音楽を弾きたいが、その国の人と交流し地域に貢献したり、また音楽を通して世界中の医師たちと、学会や仕事とで質の違う交流ができることが新鮮です。— 私にとって仕事は、Passion、ですが、音楽は、Love、そして良い仕事をするための必要な要素となっています。

— ありがとうございます。お待ちしております。



NHの外来でクリニカルフェローと

— 村上博美 村上博美 (むらかみひろみ) Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship (JSIE) 代表。日本と米国の文化や価値観の違いを人財育成の観点から研究し、DC戦略研究所 (ES) や戦略国際問題研究所 (CSIS) などの研究員を務め、2015年に503(c)3非営利団体 JSIE (www.jsie.net) を創設。米国際経営学修士、米国際問題研究大学院 (SAIS) 国際関係論博士。



ワシントンDC 館商組合員店

会席料理を中心に、日本からの鮮魚を使用したお刺身。寿し、季節の旬の一品料理をご用意して皆様のご来店をお待ち申し上げております。

**寿司 TARO**

1503 17th St., N.W., Washington, DC 20036  
電話: 202-462-8999 www.sushitaro.com

営業時間 ランチ: 月~金 11:30am - 2:00pm ディナー: 月~土 5:30pm - 10:30pm 休日: 日

原稿・情報大募集!

ワシントン&ヒューストン

各種イベントの告知お得意情報など

takesue@imedianet.com

尾崎真由美 会計士

確定申告 経理代行 会社設立

日本語フリーダイヤル ファックス 1-877-827-1040 電話) 305-233-6551 メール) info@1040me.com

住所: 9900 SW 168th Street Suite 1, Miami, FL 33157 Website: 1040me.com

共済「中小企業の資金調達方法がわかる本」法人様申告または会社設立お申し込みの方に無料で差し上げます。